

# 会 議 録

<b>1 会議名</b>	令和3年度 第2回ひめじ創生戦略会議
<b>2 開催時期（意見聴取期間）</b>	令和4年2月17日～3月4日
<b>3 開催方法</b>	書面開催
<b>4 議題</b>	ひめじ創生の主な取組について
<b>5 傍聴人の定員</b>	なし
<b>6 傍聴手続きに関する特記事項</b>	新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催とする。
<b>7 主な意見</b>	詳細については別紙参照
<b>8 問い合わせ先</b>	姫路市政策局地方創生室 電話079-221-2832

<p>会長</p>	<p><b>1 地方創生全般について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs は、産官学をはじめとする多様な主体がその達成に向けて取り組むべき目標であり、特にグローバルの視点をもってローカル（地域社会）で活動を推進する意味は大きく、取組みそのものが地方創生に直結すると考えられる。この意味において、ひめじ創生に向けて SDGs を基軸にして事業展開を図る考えは時宜に適っていると考える。</li> <li>・コロナ禍の中で一気に進んだ各分野における DX を地方創生に活かす施策の検討も必要である。資料中にも「スマート市民農園×農業版 STEAM 教育」が例として取り上げているが、（大規模）農業、（養殖）漁業、森林伐採・植栽計画など農林産業の ICT 化（AI 化）の支援が重要と思われる。</li> <li>・都市の活力を維持するためには、言うまでもなく産業活動の活性化が重要である。中小企業もこれまでの地理的に閉じたエリアだけではなく、同業者間のネットワーク等を使って情報共有や顧客管理をし、e コマースなどの積極的な活用により日本あるいは世界を対象に戦略を見直したり、ビジネスモデルの変革や企業風土・文化の改革を図ったりするなど DX の推進が強く求められる。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひめじ創生戦略が、令和3年度から新たな総合計画に統合され、SDGs をキーにひめじ創生を推進していく姿勢は、姫路市 SDGs 未来都市としての決意が感じ取れる。</li> <li>・世界的に見ても、産業、観光、環境、教育等全ての分野におけるキーワードは「サステイナブル」であり、持続可能な施策の展開が求められている中で、時流に乗った「ひめじ創生戦略」になっていると思う。</li> <li>・今後は、この戦略の実現に向け、一つ一つの施策が確かなものとなるよう期待している。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひめじ創生事業の進捗状況について、重要業績評価指標は、コロナ禍の影響もあり、大きく落ち込んでいる数値もみられるが、若い世代へのアプローチは今後につながる取組みであり評価できる。特に、これから結婚、妊娠、出産、育児を行う女性に対する支援、子供への支援については、す</li> </ul>

<p>会長</p>	<p>ぐには数値に表れなくとも今後の「ひとづくり」、「しごとづくり」、「まちづくり」の基礎となるところである。中期的な視点、SDGsの視点を含め、市民と経済界などとともに継続的な取り組みを行ってほしい。</p> <p><b>2 移住定住について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府の調査によると東京（圏）に住む20代から30代の一定割合が地方移住を検討しているというデータがあり、コロナ禍の中でその数は増加傾向にある。その理由として、約25%の人が「テレワークにより地方でも同様に働けると感じた」を上げている。この間、テレワークを実施した多くの企業がテレワークで可能な仕事が多くあること、あるいはオフィススペースや通勤手当の縮減などによるコスト削減の効果が大きいことなどを知った。一方、従業員は不要になった通勤時間を家族とのコミュニケーションや趣味などに有効に活用できることを経験した。さらに、大都市の人口過密の危険性を目の当たりにしたことなどもあり、自律分散ができる仕事につく者の多くが、大規模都市から地方都市へ移住したり、企業もリスク分散のために地方への移転を加速したりすることが考えられる。これらの動向を視野に入れた取組が、本市の人口の社会減を抑える（逆に増に転じる）ことに繋がると考えられる。</li> <li>・地方都市がこれらの人々を迎え入れるためには、コンパクトシティとしての機能をしっかり整備し、豊かな生活を実感できる「まちづくり」に努める必要がある。そのためには、子育て、健康長寿、診療システム、教育、働き方、産業支援などにDXを取り込みながら市民ファーストの政策を推進すると共に、全ての人を包摂するダイバーシティ&amp;インクルージョンの視点を持つことが求められると考える。加えて、地域の特色を最大限活かした「リアル」な魅力を訴える戦略的施策に取り組み、文化の香り高い歴史都市として、そこに住む人々が自分たちの街に愛着と誇りを持って住み続けたいような、そして出て行った人達もいずれは帰ってきたいような都市を実現することが望まれる。</li> <li>・姫路市は男性文化の傾向が強く、これに比べて女性文化が弱いことが若い女性が転出する一つの要因ではないかと思われる。女性目線の女性が主体となる全国規模の文化事業を開催したり、小規模であっても市内女性の自主的な文化サークルやSDGs活動などをこまめに支援したりすることが望</li> </ul>
-----------	---

事務局	<p>まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連都市と連携して千姫の大河ドラマを要望されているが、このことを大々的にアピールして、地名にも「姫」がついているので、姫路市を女性が輝く女性本位の文化都市にイメージチェンジすることが望まれる。</li> <li>・市内の各高校から女子高校生に集まってもらい、その方策などについてのディスカッションを通して、若い女性の感性を積極的に市政に反映させることも効果があると思われる。年単位の組織として、年数回開催すれば斬新なアイデアが出てくると思われる。市主導ではなく生徒に任せることが肝要かと思われる。</li> </ul> <p>・令和4年度から実施する「SDGs×グリーン」グローバル人材育成事業は、それぞれの事業が、高校生をはじめ若者が参画する事業である。地方移住の関心が高まっている中、若者が姫路を知り、誇りを持ち、住み続けたいと思えるように取り組んでいきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性20～24歳が最も多く（約250人）、次が男性25～29歳（約150人）。若年層が突出しているが、それで「若い女性に魅力が伝わっていない」と女性だけを取り上げるのは短絡的と思われる。男性にもスポットを当て対策を考える必要がある。また、「進学」であれば、地域に大学が少ないと推測できるが、「就職」については、どう分析されているか。これによって対策のうち方が変わってくるのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性25～29歳の転出超過数の多い都市は、東京都、大阪府、神戸市であり、転入超過数の多い都市は、たつの市、赤穂市、宍粟市であり、全体の転出超過数の多い都市と変わらない。その原因の1つとして、希望する就職先が地元が少ないことが考えられる。そのためにも、魅力的な企業や研究所の誘致、創業支援が必要と考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市の取り組む移住定住対策が、若者にキャッチされ、理解されているのか、疑問である。資料の「姫路市SDGs未来都市の概要」にあるように、これからの若者に姫路市の取組について興味を持ってもらい、「大好き姫路」「住みたい姫路」に変えていってほしい。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひめじ創生 SDGs カフェについて、これからの姫路を支えていく若い世代の意見を聴く場つくるために、定期的に開催していただきたい。また、アウトプットする場も積極的に設け、具現化できるような橋渡しも行政にお願いしたい。姫路にあるたくさんの企業と、地元の高校生たちのネットワークが広がれば、コラボ企画で新しい価値観の産業が生まれてくると期待している。</li> </ul>
会長	<p><b>3 SDGs 推進について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs 達成に向けたひめじ創生 SDGs カフェやひめじ創生 SDGs アワードの取組事例は、効果が期待できる良い企画と思われる。</li> <li>・カーボンニュートラルの取組はいずれも非常に重要である。これらに加え、姫路港あるいは播磨灘の島嶼部を GX のモデル地域として開発研究することも、地域の起爆剤として興味深い取組になることが期待できる。</li> </ul>
副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ 2 年間コロナ禍により、姫路市の社会・経済は大きな混乱を招いた。そのような中で、本市は今年度から「SDGs 未来都市」に選定された。これを受け、環境保全を保ちつつ、少子高齢化に耐えうる「ひめじ創生」のさらなる推進を図るため、「2030 年のあるべき姿」として数値目標を掲げた。ここで重要なのは細部にわたるまで十分な施策を立てこの数値目標を実現することに他ならない。目標が達成されることをお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市 SDGs 未来都市にかかる KPI については、数値の根拠等の詳細が不明だが、2022 年度の会議で説明すると記載があるので、その際に補足説明されたい。例えば、定住人口の減少見込みの理由、市内従業者数の減少に関する内訳（業種、正社員とそれ以外など）と理由、文化拠点施設の入館者数減の内容などについて、伺いたい。</li> <li>・姫路市 SDGs の前提となる「ひと」と「しごと」の好循環について「しごと」の部分が、「稼ぐ力が向上する仕事づくり」とあるが、どうすれば「稼ぐ力」が向上すると考えておられるのか。</li> <li>・国際理解講演会について、資料のチラシにふりがなが付されているが、どのような方の参加を見込んでおられるのか（外国人の参加を想定？子ど</li> </ul>

事務局	<p>もの参加を想定か)。実際の申し込み状況はどのような感じか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 諸制度の認知度が低いと感じる。制度の利活用を促すため、周知が必要だと思う(市民が目にする、広報ひめじや街角のポスターだけでは行き届かない)。(例：空き家バンク、国際理解講演会、農業版 STEAM 教育)</li> <li>・ 次回会議は 2022 年 5 月に予定しており、それまでに 2021 年度の数値は出ていると思われるので、数値をしっかりと分析し説明したい。</li> <li>・ 「稼ぐ力が向上する仕事づくり」の対策として、企業誘致、創業支援の推進などにより、若い世代を中心に人口の社会増を図る取組を進めていくことが重要と考えている。併せて、結婚、子育て世代が将来にわたる展望を描ける環境づくりが重要であると考え、結婚及び妊娠、出産期の支援、幼児期・保育の支援などの少子化対策・子ども支援を推進し、出生率の向上につなげていく必要があると考えている。</li> <li>・ 国際理解講演会について、姫路市としては、高校生をはじめとする若者に参加していただきたいと考えているが、外国人の参加も呼び掛けるため、ふりがなを付している。概ね定員の参加申込があった。</li> <li>・ 周知については、必要な人に必要な情報を届けるために、また、プル型の情報収集にも対応できるよう、姫路市としても様々なメディアを活用して情報発信していきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 姫路市 SDGs 未来都市への取組については、コロナ禍の影響はあるものの、1つ1つのプロジェクトを順調に積み上げている。「しごと」、「ひと」、「まち」それぞれの取組は、新たなアイデアやマインドにより生まれたプロジェクトであり、次世代へとつながる SDGs の取組みとして評価できる。今後「経済」、「社会」、「環境」の新しい価値の創生を実現しながら、SDGs マインドを持った人材を育て、これまでにないアイデアで持続可能な社会の実現、好循環な社会の実現を目指してより一層取組んでいただきたい。</li> <li>・ 令和 4 年度の取組「SDGs×グリーン」グローバル人材育成事業について、SDGs を実現するためには、経済のグリーン化は欠かせない。世界的に見ても日本は遅れている。経済活動+環境意識はセットのものであり、市内の事業者はもちろん、幅広い世代の市民に意識を持ってもらいたい。ぜひ、「SDGs×グリーン」なグローバル人材を育成してもらいたい。</li> </ul>

委員	<p><b>4 少子化対策について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚新生活支援事業について、現在の75件の申請件数を多いと見るか、まだ少ないと見るか。姫路市の大きな課題である「転出超過」の歯止めとしての効果は見込めないだろうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度開始した事業であるが、他都市の同制度の実績や人口規模、年間婚姻数約2,400件を勘案した結果、150件を想定した。3月11日現在124件と概ね予定通りと考えている。この制度における「転出超過」抑制の効果であるが、2年以上継続して姫路市に居住することが条件であるため、一定の効果があると期待している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市から若者が出て行く人が多くなっている。子育てしやすい姫路になるには、姫路市は、「子育てを応援します」という姿勢を打ち出すべき。公園から子供の声があふれる街づくり。子どもの声がうるさいと感じるのではなく、市民がみんな子どもを育てようというきもちになるようなスローガンを示すべき。</li> <li>・子育て世帯に助成金を増額してほしい。他市と比べて助成金が少ない。</li> <li>・姫路市の魅力発信について、積極的に広報されている。内容充実をさらに図って欲しい。</li> <li>・小学校・中学校・高校での学びに「人の一生について・・乳幼児期への関心を持てるような授業カリキュラムの工夫」を姫路独自で計画してほしい。特に仕事に関心を持ち始める中高校生に「育児・保育」の学びをしてほしい。それが保育士への道を求める生徒の増加につながり・保育士不足の解消へ・姫路市の出生数の増加へ・若者が姫路からでることを食い止める結果につながることを期待したい。</li> <li>・兄弟姉妹の少ない家庭で育ち、地域にも世代の違う子どもがいないので異年齢のかかわりや育ち合いができていない。育ちの連続性を具体的に学べるような現場経験や意見交換、人権教育ができる授業を導入していきたい。</li> <li>・育児への関心・幼児教育現場で実際に子どもの群れて遊ぶ姿、年齢によって成長の違いを感じてほしい。中学校の「トライやる・ウィーク」のよ</li> </ul>

	<p>うに全員の生徒の見学・実習できる日を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て中、子育て前の親教育のため、保育園、認定こども園の乳児クラスでの一日保育士体験で小さい子どもと触れ合う経験を生かす。虐待防止につながることも狙えるのではないだろうか。</li> <li>・多様な学びの保証。小中学校以外の居場所づくり。多様な世代の人たちの集まり、気軽に交流できる場づくり。高齢者に、経験を積んだプロが埋もれている。</li> <li>・姫路市内の私立中学校の高等学校に通学している市外の生徒が、姫路で遊ばずに明石や神戸に出かけている。その年齢の子どもたちがちょっと立ち寄ってみようかと思える場所や店舗があると姫路への魅力につながるのではないかと考える。</li> <li>・子育て世代の働き方改革。子どもが体調不良などの理由で仕事を早退、欠勤できるよう企業に働きかけ。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新婚新生活支援事業について、コロナ禍で、人とのつながりの大切さを感じた人は多いと思われる。想いはあっても、未来が不透明な混沌とした今のご時世では、結婚は高いハードルだと思われる。そんな時に、新生活を応援してくれるこの制度は、非常にありがたく、背中を押してくれると思われる。他市で、転入者に対するこうした施策はあるが、市民に対する補助は素晴らしい。婚姻届提出時前に知れるよう、広報に工夫をお願いしたい。</li> <li>・今後プラスで必要なのは、不妊治療に対する支援だと思われる。今年の4月から国の施策で不妊治療は保険適用になるが、対象範囲も限られている。姫路市独自の助成金など、実態調査のうえ、少子化対策としても考えていただけたらと願っている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路市としても、少子化対策は最優先課題の1つであり、誕生から子育て世代にいたるまでのライフステージに応じた連続的な支援を充実させ、安心して子どもを生み育てられる環境を整えるため、様々な施策を各局連携し展開していきたい。</li> </ul> <p><b>5 観光・産業振興について</b></p>

会長	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域産業の活性化には大企業の本気度の高い地域貢献が不可欠と考える。大中小企業が連携したオープンイノベーションの場を（難しい問題を乗り越えて）大企業が主宰して系列を離れた協力関係を築く努力が求められる。</li><li>・女子学生の就職も大企業が率先して積極採用を行い、地元企業をリードする役割を期待する。特に、理系女子については大学在学中（場合によっては高校在学中）も含めて地元定着に向けた取り組み等を期待する。</li><li>・市街地にある空きビル等（例えば、廃小中学校校舎）をリニューアルしてサテライト（テレワーク）オフィスとして貸出すとともに、それによってそこで形成される異なる企業の社員同士による昼間のコミュニティ形成支援を行えば、従来にない新しい息吹を街に吹き込む活動を起こしてくれることも期待できる。</li></ul>
----	--